

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902561		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム あげぼのIV		
所在地	旭川市曙3条6丁目1番14号 (電話) 0166-21-3177		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年11月18日

【情報提供票より】 (20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人 非常勤 1人 常勤換算	10.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 16,500円
	有() 円	○無	暖房費9,600円(10~4月)
敷金	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	○無		
	朝食	450 円	昼食 300 円
食材料費	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (10月 17日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	7名	要支援2	0名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	忠和クリニック、くにもと病院、メイプル病院、小池歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに河川敷や文教施設のある閑静な住宅地の中の環境に恵まれたホームである。ホーム内は共用部分が非常に広く、清潔に保たれている。またエレベータが設置され、段差も少なくバリアフリーに配慮したつくりとなっている。同一法人の中で最も介護度の高い利用者を受け入れており、そうした状況の中でも利用者ができるだけ明るく楽しく生活できるように職員が明るい雰囲気ですべて接しており、利用者の暮らしや生きがいを重視した介護がなされている。母体である医療法人のバックアップが手厚く、医療連携、社員教育、委員会(感染症、安全、接遇)制度などを充実させている。職員同士の人間関係も良好であり、利用者との信頼関係も築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームでは、前回の評価をもとに医療ニーズを必要とする利用者を受け入れる体制を強化し、整備を行なっている。今後も期待に応えられるホームとして前向きに検討されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的は、運営法人、管理者、職員全員が理解しており、一人ひとりが評価表に個別記入し自己評価に取り組んでいる。今後も外部評価結果も含め検討を行ない、その結果を活かし、具体的な改善に取り組む予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員・法人関係者を構成員とし開催している。会議においては活動報告、地域の協力依頼などの意見交換も行ないホームの運営に活かしている。今後は、報告や情報交換にとどまらず、幅広い立場の人に参加を呼びかけ、助言や意見を求め、地域に開かれたホームとして定期的に開催し、サービスの質の向上に努められるよう期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期発行の通信「かがやき」は滞っているが、毎月の請求書とともに一人ひとりに送られる手紙や写真で暮らしぶりを伝えている。家族の来訪時には、職員が日常の様子を伝え、受診結果についても家族に報告している。職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望などを伝えられるような雰囲気づくりに努めている。今後もきめ細かな報告が期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元と馴染める生活作りに努めている。町内会に加入し、運営推進会議の参加協力も得られているが、町内行事や地域活動に参加し、地元の人々と交流することが今後の課題となっている。ホーム理念にも含まれ、管理者も職員も地域に根ざすことの重要性を認識している。今後は地域行事への積極的な参加や、交流の場としてのホームの開放、運営推進会議を通じての災害時の協力体制の構築などを期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニット毎に職員が全員参加して、地域の中で安心して暮らせる新しい理念が作成されている。職員のホームに込める思いと、利用者の立場に立った独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット毎に理念を掲示し、毎朝のミーティング時に唱和され、職員は思いを込めた理念の実践に向けて取り組んでいる。管理者はミーティング、申し送りなどでも常に理念に触れ確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員全員が地域に根ざす大切さを認識しており、地元と馴染める生活作りに努めている。町内会に加入し、運営推進会議の参加協力も得られている。しかし、町内行事や地域活動に参加し、地元の人々と交流することが今後の課題となっている。	○	ホーム理念にも含まれ、管理者も職員も地域に根ざすことの重要性を認識している。今後は地域行事への積極的な参加や、交流の場としてのホームの開放、運営推進会議を通じての災害時の協力体制の構築などを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は、運営法人、管理者、職員全員が理解しており、全員が参加して自己評価に取り組んでいる。今後も外部評価の結果も含め検討を行ない、その結果を活かし具体的な改善に取り組む予定である。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員・法人関係者を構成員とし開催している。活動報告、地域の協力依頼など意見交換も行ないホームの運営に活かしている。しかし、定期開催とはなっていない。	○	運営推進会議の目的は、報告や情報交換にとどまらないことから、幅広い立場の人に参加を呼びかけ、助言や意見を求め、地域に開かれたホームとして定期的開催し、サービスの質の向上に努められるよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は道北ブロック協議会のメンバーとして活動しており、各種研修会や行政との打ち合わせなどに参加し、グループホームの質の向上に向け力を注いでいる。利用者の安全対策やネットワーク作りに貢献している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期発行の通信「かがやき」は滞っているが、毎月の請求書とともに一人ひとりに送られる手紙や写真で暮らしぶりを伝えている。家族の来訪時には、職員が日常の様子を伝え、受診結果についても家族に報告している。	○	定期通信の再開などで、日々の暮らしぶりやエピソード、特に外出状況などを家族に細かく伝え、積極的な報告によりホームへの信頼や協力関係が築かれることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望などを伝えられるような雰囲気作りに努めている。内容については直ちに検討し、希望に沿った対応が行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人間での移動や離職の際には、利用者に不安や混乱が生じないように最小限に抑える努力をし、利用者への影響を防ぐ配慮をしている。馴染めるまで一緒の時間を多く持つなど、家族への協力もお願いしている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人や管理者は、人材育成の重要性を認識しており、年次計画の中に研修予定が盛り込まれている。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修にも交代で参加し、参加後も職員間での報告が行なわれ、共有も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のホームとは盛んに交流が行なわれ、各種委員会の設置によりサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。外部的にも研修会や勉強会への参加により、ほかのホームとの情報交換や交流があり、職員への報告もされている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に入院先や利用者宅を訪問し、利用者や家族と細かい情報交換を行ない、見学に来ていただき安心して入居できるようにしている。職員と馴染みになり、ホームの雰囲気に徐々に溶け込めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。利用者から生活の知恵や料理の味付けを教わったり、昔話を聞くことで共感したり、励まされたりしてともに支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートの使用により、入居時に利用者の生活歴などの情報や心身の状況を収集している。入居後も担当職員は、日々の暮らしの中から利用者の希望・意向の把握に努め、利用者本位の生活となるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを活用し、職員の日常の気付きや利用者・家族の意見や要望を取り入れた介護計画を作成している。医療ニーズの多い利用者には、細かく記載され、安全と安心に配慮された介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度ミーティングや記録をもとに評価を行ない、見直しを行なっている。利用者の状態変化に応じて、関係者と話し合い見直しを行なっている。作成時には家族に説明し、確認後に同意のサインをいただいている。介護計画の目標に対しての記録については、連動出来るように検討中である。	○	利用者の生活目標に応じた対応が、実践されているかについての記録は、評価や検討の場面で重要な要素となるので、記録については、ケアプランに連動した記載が出来る取り組みを期待する。また、カンファレンスやミーティング時の議事録整備の取り組みを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や理美容院への付き添いなど、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしている。必要物品の買出しや外出、そのほか利用者の要望に応じた支援を行なっている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は定期的に利用者の希望する医療機関へ同行して、状態の報告、聞き取りを行ない、受診後は家族に報告している。また、ホームには協力医療機関による訪問診療や訪問歯科診療も受けられるなど、適切な支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化や終末期に向けた指針が記載されており、家族の方々と方針を共有している。また、関係医療機関とも連携が取れており、今後は職員とともにより細かな重度化・終末期への対策が検討されている。	○	重度化や終末期に際してのケアのあり方、ガイドライン作成は、ホームを中心に早い時期から利用者、家族の方々、医師などで対応の確認が必要である。ホームが対応できる最大の支援の具体的方策について、書式にまとめ、職員の共有方法なども早い時期の検討を期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を心がけている。また、写真の掲載や名前の表示、個人情報の管理についてもきちんと管理され、プライバシー保護のための対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが強制することなく、職員は一人ひとりを尊重し、体調や生活歴を大切に、その人らしい生活となるよう支援している。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を取り入れながら職員が献立を作成し、食事の準備・調理・後片付けなども一緒に行なっている。ホーム内で収穫された野菜も盛り込まれ、職員と一緒に席に着き、食事が楽しみの一つとなる支援が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を優先し、自由な時間で入浴が可能となっている。夜間や早朝も希望があれば可能で利用者が安全に入浴できるよう支援している。必要に応じシャワー浴や清拭も、さりげない声かけで行なわれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状況を見極めながら、生活歴や得意なことを活かし、モップかけや食事の盛り付け・食器の片付けなどの役割、日常楽しめるような場面作りを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・散歩・職員とともに花壇作り・畑仕事など、利用者の希望に応じた外出支援を行なっている。現在は一人ひとりの状態に合わせ、何をしていただけかについて、検討が行なわれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。玄関にはセンサーが設置され、利用者が外出する様子が見られる時はさりげなく声かけし、利用者の安全面に配慮しながら、一緒に出かけるようにしている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや消火器の整備、救急救命訓練、災害想定の見直し確認は行なわれているが、定期的に消防署の協力をもとに行なわれる避難訓練が十分に行なわれていない。	○	年2回の避難訓練計画作成と、利用者の安全を確かなものとするため、利用者一人ひとりの具体的な避難誘導策の検討、地域の協力体制構築、日中・夜間を想定した避難訓練など、不測に備える取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を一人ひとりについて、記録しており、職員は情報を共有し、体調管理を行なっている。また、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じた調理方法の工夫や、胃瘻対象者には医師の指示により適切な対応もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく開放的でソファや椅子が多く設置され、利用者が思い思いの場所で過ごせる空間となっている。また、光・音・温度・湿度なども適宜調節されており、一日を過ごす憩いの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の使いやすいように家具や使い慣れた持ち物が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるような工夫をしている。今までの生活と変わることのないよう精神的負担が軽減できるよう配慮がなされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。